慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	碧蹄の戰附幸州城, 陸軍少將渡邊金藏著
Sub Title	
Author	幸田, 成友(Koda, Shigetomo)
Publisher	三田史学会
Publication year	1924
Jtitle	史学 Vol.3, No.1 (1924. 6) ,p.157(753)- 157(753)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	書評
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19240600-0157

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

碧蹄の戰附幸州城

陸軍少將渡邊金藏著　非賣品

我々史學の研究生は史學以外の專門家によつて少からぬ利益を得る。本書もその一で、碧蹄の戰を戰前の概況、兩國軍の戰法及兵器、地形の略說、日本諸將の軍議、明軍の狀況、戰況、戰より得たる敎訓の八節に分けて說明せられて居るが、第二節に「日本の鳥銃と刀とは明軍の恐るゝ處であつたが、明軍の大砲と馬とは我軍の忌む所であつた」とあるのに敬服した。兩國軍の戰法及兵器については本書に相應說明を加へられてゐるが、我等は本書の說明以上にもつと委しく知りたい位である。參謀本部編修の日本戰史で桶狹間役から大阪役まで、重なる戰鬪の經過は一通り解つたが、文祿慶長も右同樣陸海軍方面の專門家の記述を得たいものである。更に進んでは織豐時代の戰法、兵器輜重といふやうな概括的の記述を得だいものである。今の輜重、古い言葉でいへば小荷駄のことは一向不明で、既出の日本戰史にも殆ど缺けて居る。如何にも殘念です。

（幸田成友）

日本社會史

本所榮治郎著　岩波書店發行

先づ博士は第一章に於て日本社會史の觀念を述べ、第二章以下第六章に於ては日本の上古より德川末期に到るまでの社會を順次分類して、氏族制度、郡縣制度、莊園制度、分權的封建制度、集權的封建制度の各社會となし、而してそれら各社會に於て社會組織、社會階級、社會問題の三段を分ちて研究し、最後に日本社會史の特性を論じて結末とせらる。

此の如き研究方法を採るは便利にして且有效なるべく、而も明確を缺く嫌あるべき此の種の研究をして理路整然たらしめしは敬服に値す。是れ博士が社會史の意義を明瞭に捉へ確乎たる日本社會史研究の立場にある故ならんと考へらる。博士は社會史の意義を四種ありとし、その中にて「社會問題の歷史を指すもの」を採り、更にそれにも第一義、第二義、第三義ありとし、その第二義を採られたり。第二義とは社會階級間又は階級內に於ける經濟上の不調和の問題、即ち富の分配の不公平に起因する問題をいひ、日本社會史とは大體に於て我國に於ける社會階級上の經濟問題の歷史なりとは博士の意見なり。或は社會の二字を甚だ限定し、社會政策に對する社會即ち近代的現代的意味の社會を指す者あれどこは畢竟ターミノロジーに關する意見の相違にして、可否を論ずべき限にあらずと信ず。

次に閱讀の際心付ける一二の點を擧ぐべし。

福田博士の社會は甚だ限定せるものにして社會政策に冠する社